

問1 室町幕府の8代将軍で、京都の東山に「銀閣」を建て、独自の文化を広めた人物はだれでしょう。

1. 徳川家康                      2. 織田信長                      3. 足利義満                      4. 足利義政

問2 室町時代に広まった「下剋上」とは、どのような動きや風潮のことですか。

1. 幕府の命令に従って、新しいお寺を建てる動き                      2. 実力のある者が、上の身分の者に取って代わる動き                      3. 貴族たちが、昔から伝わる古い決まりを守ろうとする動き                      4. 豊かな商人が、貧しい農民に食べ物を分け与える動き

問3 幕府が防塁（ぼうるい）を築かせた目的や場所について、正しい説明はどれですか。

1. 幕府の力を示すために、鎌倉の山の中に築かせた。                      2. 元と貿易をさかんにするために、港の近くに築かせた。                      3. 1回目の来襲の前に、元を攻撃するための基地として築かせた。                      4. 元の2回目の来襲にそなえて、海岸沿いなどに守るために築かせた。

問4 14世紀に、足利尊氏（あしかがたかうじ）が京都に開いた幕府を何といますか。

1. 室町幕府                      2. 明治政府                      3. 江戸幕府                      4. 鎌倉幕府

問5 観阿弥と世阿弥が完成させた「能」が、当時の武士や貴族の間で大切にされるようになった理由として、正しいものはどれでしょう。

1. 江戸時代に全国の農村で誰でも踊れるようになったから                      2. 観阿弥と世阿弥が新しいお金の計算方法を広めたから                      3. 芸術としての完成度が高く、洗練された芸能として認められたから                      4. 当時流行していた歌舞伎と組み合わせさせて娯楽にしたから

問6 元（げん）が2回目の来襲（らいしゅう）をしてくることにそなえて、幕府が海岸沿いなどに築かせた、守りのための石の壁を何といますか。

1. 守護                      2. 関所                      3. 地頭                      4. 防塁

問7 源頼朝が鎌倉に開いた、武士の政権を何といますか。

1. 鎌倉幕府                      2. 室町幕府                      3. 朝廷                      4. 江戸幕府

問8 室町文化の特徴として、当時の庶民の生活の様子をあらわしているものはどれですか。

1. 祭りや盆踊りが庶民の間でも定着した                      2. すべての庶民が屋敷を持ち茶の湯を楽しんだ                      3. 漢字を読み書きするための学校が全国に作られた                      4. 貴族の言葉が全国の庶民の標準語になった

問9 室町時代に、父と子で協力して「能（のう）」という芸能を芸術として完成させた二人の人物はだれでしょう。

1. 狩野永徳と狩野探幽                      2. 源頼朝と足利尊氏                      3. 観阿弥と世阿弥                      4. 雪舟と一休宗純

問10 源氏の将軍が途絶えた後、執権の役職について政治を行ったのは何氏ですか。

1. 足利氏                      2. 北条氏                      3. 藤原氏                      4. 平氏

問11 室町時代から戦国時代にかけて見られた、実力のある者が、上の身分の者に取って代わる動きや風潮のことを何といますか。

1. 守護大名                      2. 土一揆                      3. 惣村                      4. 下剋上

問12 中世の時代に、各地で「定期市」が作られるようになったきっかけは何ですか。

1. 商業が盛んになったこと                      2. すべての道に関所ができたこと                      3. 外国との戦争が始まったこと                      4. 農業が禁止されたこと

問13 室町文化において、茶の湯や生け花が単なる楽しみ以外に大切にされていたのはなぜですか。

1. お金を稼ぐための仕事だったから                      2. 精神をきたえるためや、人との交流の場として大切だったから                      3. 外国との貿易をすすめるための合図だったから                      4. 将軍が強制的に練習させたから

問14 鎌倉時代に、吉田兼好（兼好法師）によって書かれた随筆は何ですか。

1. 徒然草                      2. 枕草子                      3. 方丈記                      4. 平家物語

問15 鎌倉時代に、将軍を補佐して政治を行うために置かれた役職は何ですか。

1. 守護                      2. 地頭                      3. 執権                      4. 御家人

問16 鎌倉幕府がつくった、武士の裁判の基準となる法律は何ですか。

1. 御成敗式目                      2. 武家諸法度                      3. 大宝律令                      4. 十七条の憲法

問17 鎌倉時代に西日本で始まった、稲を刈り取ったあとの田畑で麦などをつくる農業の方法を何といますか。

1. 二期作                      2. 新田開発                      3. 二毛作                      4. 輪作

問18 室町時代に生まれた文化のうち、能の合間に演じられた、庶民の生活などをユーモラスに描いた劇を何といますか。

1. 狂言                      2. 水墨画                      3. 書院造                      4. 茶の湯

## 答え合わせ・解説 No.1

問1	答え 4 足利義政	足利義政は、室町時代の中ごろに活躍した8代将軍です。京都の東山に銀閣を建て、当時の文化である「東山文化」の中心となりました。ちなみに、金閣を建てたのは3代将軍の足利義満です。
問2	答え 2 実力のある者が、上の身分の者にとって代わる動き	下剋上は、身分が下であっても実力がある者が、上の身分の者にとって代わる動きや風潮のことです。
問3	答え 4 元の2回目の来襲にそなえて、海岸沿いなどに守るために築かせた。	防塁は、元の2度目の来襲にそなえて、幕府が海岸沿いなどに築かせた守りのための石の壁です。攻撃用や貿易用、山の中のものではありません。
問4	答え 1 室町幕府	足利氏によって京都に開かれた政権は室町幕府と呼ばれます。源頼朝が作った鎌倉幕府や、徳川家康が作った江戸幕府とは、開かれた場所や時代が異なります。
問5	答え 3 芸術としての完成度が高く、洗練された芸能として認められたから	能は単なる踊りではなく、舞台芸術としての高いレベルを備えていました。そのため、教養のある武士や貴族にとって、能を見ることは当時の文化を味わうための重要な楽しみとなりました。歌舞伎は後の江戸時代に発展した芸能であり、この時期の能とは異なります。
問6	答え 4 防塁	元の2回目の来襲にそなえて、幕府が海岸沿いなどに築かせた守りのための石の壁（石塁）を防塁といいます。
問7	答え 1 鎌倉幕府	源頼朝が鎌倉に開いた武士の政権を鎌倉幕府といいます。
問8	答え 1 祭りや盆踊りが庶民の間でも定着した	室町時代は、武士や貴族だけでなく、庶民の間でも文化が広がった時代です。各地で季節の行事である祭りや盆踊りが楽しめるようになり、人々の生活に文化が根付いていきました。
問9	答え 3 観阿弥と世阿弥	二人は室町時代に活躍した親子です。それまで各地で行われていた芸能をまとめ上げ、物語性や芸術性の高い「能」という形に仕上げました。この能は、当時の武士や貴族たちにも深く愛され、今日まで続く日本の伝統芸能として根付きました。
問10	答え 2 北条氏	源氏の将軍が途絶えた後は、北条氏が執権の役職について政治を行いました。
問11	答え 4 下剋上	実力のある者が上の身分の者にとって代わる動きや風潮を「下剋上」といいます。
問12	答え 1 商業が盛んになったこと	定期市は、商業が盛んになるにつれて、各地で定期的に開かれるようになった市場です。
問13	答え 2 精神をきたえるためや、人との交流の場として大切だったから	当時の武士や貴族にとって、静かに茶を点てたり花を生けたりすることは、自分の心を見つめ直す精神修養（精神をきたえること）や、大切な客人を招いてお互いの心を通わせる大切な交流の手段でした。
問14	答え 1 徒然草	鎌倉時代に吉田兼好（兼好法師）によって書かれた随筆は「徒然草」です。
問15	答え 3 執権	将軍を補佐して政治を行う役職を執権といいます。
問16	答え 1 御成敗式目	鎌倉幕府がつくった、武士の裁判の基準となる法律を御成敗式目といいます。
問17	答え 3 二毛作	稲を刈り取ったあとの田畑で麦などをつくる農業の方法を二毛作といいます。
問18	答え 1 狂言	能の合間に演じられ、庶民の生活をユーモラス（おもしろおかしく）に描いた劇を狂言といいます。